

野菜畑作生産情報 第7号

令和元年10月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎大豆やながいもは、適期収穫で良品生産に努めましょう！
◎小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

生育はおおむね成熟期に達しており、早いところでは収穫適期に達している。

表-1 大豆の生育状況

| 場 所 | 年次 | は種期 (月日) | 出芽期 (月日) | 開花期 (月日) | 成熟期 (月日) |
|--------------|-------------|--------------|---------------|---------------|----------------|
| 五所川原市 金木町 | 本年 (平年比) | 6/2 (早1日) | 6/11 (±0日) | 8/1 (遅2日) | 10/17 (遅4日) |
| | 平年 | 6/3 | 6/11 | 7/30 | 10/13 |
| | 前年 | 6/8 | 6/17 | 7/31 | 10/15 |
| 十和田市 切田 | 本年 (平年比) | 6/1 (早6日) | 6/8 (早7日) | 7/28 (早7日) | 10/10 (早7日) |
| | 平年 | 6/7 | 6/15 | 8/4 | 10/17 |
| | 前年 | 6/8 | 6/20 | 8/1 | 10/9 |

(注) 品種は「おおすず」で、生育観測ほの調査データ。平年値は、五所川原市が過去17年、十和田市が同18年の平均値。

(2) 今後の留意点

ア 収穫適期の目安

コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下（主茎の中央部を爪でこすっても、表皮が乾いてむけない状態になった頃）、子実水分20%以下となった時期である。

イ 収穫

(ア) 収穫が遅れると被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に刈取りを行う。

(イ) ほ場内の雑草や青立ち株は汚粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。

(ウ) 収穫は、朝露等による湿りがない時間帯（一般的には午前10時～午後4時）に実施する。

(エ) コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

ウ 乾燥調製

(ア) 乾燥は、検査規格の子実水分15%以下に仕上げる。

(イ) 循環式乾燥機では、子実水分18%までは通風のみで乾燥させる（乾燥速度0.3%毎時以下）。また、循環速度をなるべく遅くし、しわ粒や裂皮粒などの発生を抑える。

(ウ) 静置式乾燥機では、送風温度を30℃以下とし、穀温が外気温より15℃以上に上がらないよう設定して、ときどき攪拌しながら乾燥させる。

2 小麦

(1) 生育状況

は種後の生育は、おおむね良好である。

(2) 今後の留意点

ア 湿害を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。

イ 耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。

ウ 紅色雪腐病、雪腐褐色小粒菌核病、褐色雪腐病の防除のため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、地上部、地下部ともに平年を上回っている。
- イ 10月中旬から茎葉の黄化が見られる。

表-2

ながいもの生育状況 (10月10日現在)

| 場 所 | 年次 | 植付期 (月日) | 萌芽 揃期 (月日) | 茎葉重 (g) | つるの ネット頂 到達日 (月日) | いも長 (cm) | いも重 (g) | いも 最大径 (mm) |
|----------------|-------------|---------------|------------------|-----------------|----------------------------|----------------|-----------------|-------------------|
| 野菜研究所 (六戸町) | 本年 (平年比) | 5/24 (2日早) | 6/24 (5日早) | 500.5 (116%) | 7/22 — | 73.9 (104%) | 1,543 (114%) | 70.8 (101%) |
| | 平年 | 5/26 | 6/29 | 430.9 | — | 71.4 | 1,356 | 69.9 |
| | 前年 | 5/25 | 6/28 | 315.3 | 7/19 | 66.4 | 1,341 | 72.8 |
| 五戸町 上市川 | 本年 (平年比) | 5/ 6 (7日早) | 6/ 9 (6日早) | — (—) | 7/ 8 (±0) | 99.7 (116%) | 1,631 (126%) | 65.5 (104%) |
| | 平年 | 5/13 | 6/15 | — | 7/ 8 | 85.8 | 1,295 | 62.7 |
| | 前年 | 5/12 | 6/11 | — | 7/ 3 | 86.7 | 1,386 | 66.5 |
| 東北町 野田頭 | 本年 (平年比) | 5/ 8 (7日早) | 5/30 (10日早) | — (—) | 7/22 (11日遅) | 71.1 (102%) | 1,053 (105%) | 48.2 (83%) |
| | 平年 | 5/15 | 6/ 9 | — | 7/11 | 69.7 | 1,003 | 58.0 |
| | 前年 | 5/ 6 | 6/ 3 | — | 7/10 | 68.5 | 1,175 | 55.8 |

- 注) ①平年：野菜研は平成19～30年の12か年の平均値。
五戸町は平成14～30年の17か年の平均値。
東北町は平成20～30年の11か年の平均値。
- ②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)ガンク切除。
五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。
東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付。
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
五戸町は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)。
- ④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の留意点

ア 収穫

- (ア) 収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。
- (イ) 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- (ウ) 掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり、直射日光や風に当たることがないように注意する。

イ 茎葉・ネットの適正処理

- (ア) 茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

2 秋冬だいこん

(1) 生育状況

は種期が平年より2日早く、出芽以降の生育は順調で、すでに収穫期に達している。

表-3 秋冬だいこんの生育状況（本年は10月3日調査）

| 場 所 | 年次 | は種期 (月日) | 葉 長 (cm) | 葉 数 (枚) | 根 重 (g) | 収穫期 (月日) | は種から収 穫までの日 数 (日) |
|--------------|-------------|---------------|----------------|----------------|-----------------|----------------|-------------------------|
| 東 北 町 滝沢平 | 本年 (平年比) | 8/ 6 (2日早) | 49.6 (115%) | 24.6 (115%) | 1,033 (110%) | 10/ 3 (8日早) | 58 (6日早) |
| | 平年 | 8/ 8 | 43.1 | 21.3 | 938 | 10/11 | 64 |
| | 前年 | 7/31 | 43.2 | 21.6 | 1,136 | 10/ 5 | 66 |

注) ①平 年：平成13年～30年の18か年の平均値。

②品 種：夏の翼。

③栽植様式：畦幅50cm×株間23cm、1条植え（8,696株/10a）。

④調 査 日：平年は10月10日、前年は10月5日。

(2) 今後の留意点

ア 収穫は、ほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

3 冬のハウス栽培の留意点

- (1) 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- (2) 二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。
- (3) ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間をふさぐ。
- (4) 古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高いものに替え、汚れが付着したフィルムは洗浄する。
- (5) ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認しましょう。
【農薬情報】(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
【農薬登録情報提供システム】
詳細検索 → (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
作物名での検索 → (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、充分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が5日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<http://cms.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/kachikuhunntaihiseizoukanritenminnaoshi.html>)

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について

自分にあつたセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

- 1 農業共済
「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。
- 2 農業経営収入保険
令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

| | |
|------|-------------------|
| 連絡先 | 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ |
| 県庁内線 | 5076 |
| 直通 | 017-734-9485 |
